

公益財団法人 日本社会福祉弘済会 助成

ホームレス状態にある家庭を対象とした 生活力獲得にむけた研修

Capacity Training for Homeless Families

実施団体名：Bahay Tuluyan Foundation, Inc., Manila..
(バハイ・トゥルヤン財団)

担当修了生：エナ / Ms. Ena Marie Monter (フィリピン /34 期)



実施団体概要

児童・若者への虐待の防止に向けて、路上で生活する子どもたちの生活や教育の支援、若者の自立支援、家庭的ケアの提供、子どもの権利に関する教育や研究を行っている。

活動地概要

この事業は、フィリピンの首都マニラのマラテ地区、トンド地区、キアポ地区で実施された。マラテ地区は首都マニラの商業と観光の中心地であり、トンド地区はマニラの16の地区のうち面積、人口において最大の地区である。また、キアポ地区は「マニラの旧市街」と呼ばれ、イスラム教徒の人口が多い地区でもある。



事業計画概要

ホームレス状態にある親で、シェルターに子どもが一時保護されている者たちに、家族療法、職業体験などの機会を提供し、家族の離散を防ぎ、子どもたちとともに生活できるよう支援する。

活動の目的・ねらい

バハイ・トゥルヤン財団は、フィリピンの子どもたちに対する虐待や搾取を防止することを目的に活動しているNGOである。マニラ市、ラグナ州、ケソン州で、路上や地域での社会的サービスやプログラムを実施、提供している。2018年から2020年の期間は、子どもたちが家族と安全に生活できる環境を整えられるように支援することを財団の大きな目標の1つとして設定した。

そのうえで、このプロジェクトを行ううえでの具体的な目標を、以下のとおり設定した。

- A) ホームレス状態にある親を対象とした、能力開発支援を行う。就労支援などにより収入増加を図ったり、家庭内で親としてのさまざまな役割を果たすことができるようにする。
- B) 貧困が原因で家族が分離してしまい、それにより子どもが不安に陥ることを防止するための取組
- C) 本財団の養護施設に現在入所している子どもたちが地域社会で再び生活できるための支援

実施内容と成果

ホームレス状態にある家族に対し、生活力の訓練、セミナー（子どもの権利についての学習、企業によるガイダンス等）、カウンセリングや意見交換会、等の活動に参加する機会を提供した。具体的な実施内容と、その成果は以下のとおり。

1. 家賃補助による生計立て直し

当財団の管理のもと、5世帯が家賃補助（3か月分）を受け、ガイダンス、カウンセリングとともに、生活力を向上させるための訓練への参加機会が提供された。

2. 家計を助ける手段としての農業について学習

具体的には、乳児を抱える家族5世帯が、ケソン州の有機農園「ウハイ農園」を訪問し、活動に参加した。2日間にわたり有機米の田植え作業を体験した。参加者の多くが、農園で働くことに関心を持った。（写真①、②）

3. ソーシャルワーカーのチームによるカウンセリング

親とその子どもたちを対象に、カウンセリングを実施した。

4. よりよい家族となるための支援方法についてスタッフの勉強

フィリピン家族セラピスト協会（SOFFT）が継続的に開催している、よりよい家族となるための支援（family development）に関する専門的な支援プログラム（CPD）に、プロジェクト担当スタッフであるソーシャルワーカー1名が参加し、専門的なスキルを学んだ。

5. 「児童保護セミナー」の開催

親たちを対象に、子どもの権利について学習するためのセミナーを毎月1回、計5回にわたって行った。15名が修了予定。内容は次のとおり。

第1回：子どもの権利と参加について（国連子どもの権利条約の概論）（写真③、④）

第2回：児童虐待と搾取（虐待・搾取の種類と子どもへの影響）について（写真⑤、⑥）

第3回：児童保護と養護における親の役割や生計手段について

生計手段を得るための活動（ヘアカット技術研修や、ヤクルト・セミナー等）への参加を促すために、参加者同士による意見交換（Open Discussion）も実施した。

第4回：児童労働、親と離別することから子どもたちをまもることについて

第5回：子どもを否定しない肯定的なしつけ（暴力や罰によらない子育て）や、子どもの「試し行動」（自傷行為や攻撃的行動など）について

なお、新型コロナウイルスの影響で、3月に実施予定だった回は中止した。状況が改善したらセミナーを再開したいと考えている。

6.ヘアカット技術の研修（「ヘアー・エイド」）

オーストラリアの団体「ヘアー・エイド・インターナショナル」の指導によるヘアカットの研修を5日間にわたり行った。参加者は24名で、親たち、当財団（バハイ・トゥルヤン）のスタッフ、若者、そしてパートナー関係にあるNGOのメンバーが参加した。5名が首尾よく研修を終えた。参加者らは追加収入を得る助けになる、と述べた。（写真㉑、㉒）

7.職業選択について知る活動

就労に向けて、職業を選択していくためのセミナー、オリエンテーションを実施した。

(1) ヤクルト社のセミナー（写真㉓）

ヤクルト社では、ヤクルト商品の路上販売を行う者を対象に立ち上げの支援を行っており、セミナーでは「いかにして『ヤクルトレディ』になるか」について説明があった。ヤクルトレディはプロバイオティクス飲料であるヤクルトの販売に従事する販売員である。当初予定していたヤクルト工場訪問はできなかったため、ヤクルト工場から従業員を招いてセミナーを行った。15組の家族が参加した。母親たちは関心を示したが、まだ小さい子どもの面倒を見なくてはならず、預かって世話をする人がいない中で、長時間販売員として働くことは難しく、雇用にはつながらなかった。しかし、ヤクルト社は、今後も販売員になる意思がある者に対しては、雇用する可能性はある、としている。

(2) 小規模な事業を立ち上げるためのセミナー

母親たちは、普段生活のために路上で過ごしている者が多い。多くの母親たちは、小規模な事業を立ち上げることの説明を受け、関心をもった。

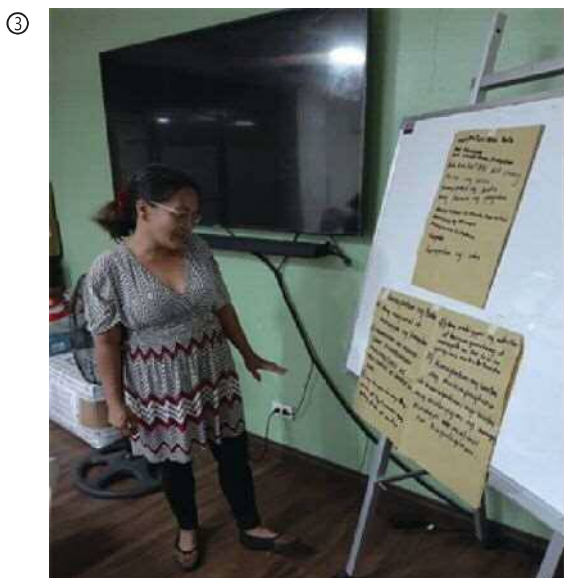
8.小規模事業立ち上げの提案の作成と、事業助成（写真㉔）

10名の母親が小規模事業の立ち上げ計画を作成し、事業提案書を提出した。その多くは、食品やたばこ、スナックなどの商品を販売する、というものであった。助成金を提供して事業の立ち上げを支援するとともに、立ち上げ後も継続して支援、監督指導が行われる予定である。なお、新型コロナウイルスの影響により、準備に遅れが生じている。

（全社協国際部付記；小規模事業への助成は、本助成事業の枠外で対応。3月中には実施できず、7月に延期して助成を行い、完了していることを確認。）



ケソン州、ウハイ農園での有機米の田植え体験
(2019年7月22日～23日)



親と保護者を対象とした児童保護セミナー
(第1回) (2019年11月9日)



親と保護者を対象とした児童保護セミナー
(第2回) (2019年11月16日)



ヘア・エイド・インターナショナルとともにヘアカットの研修
(2020年1月13～17日)



ヤクルト・セミナー (2020年1月29日)



事業提案書の作成 (2020年3月4日)

今後の展望

- ・親を対象とした児童保護セミナーの実施を継続していく。親は子どもたちの権利についての意識を高め、より責任感のある養育者となることができる。
- ・家族の関心や能力に基づいた職業選択についての学習機会の提供を継続していく。
- ・児童労働など、子どもと親が離別して家族の生活に影響を及ぼすような問題について家族とともに考え、支援し、継続的な家族の再統合を促進する一助となるよう、カウンセリングの実施を継続する。
- ・よりよい家族となることを支援するための、家族開発について専門性を高めるため、ソーシャルワーカーとスタッフのチームに対して能力開発研修を実施する。
- ・親たちが当財団(バハイ・トゥルヤン)に貯金口座を開くようにする。

実施
スケジュール

日 程	内 容
2019年7月22～23日	ケソン州のウハイ農園での2日間の有機米の田植え
毎月	ソーシャルワーカーによる親とその子どもたち向けのカウンセリング
2019年8月8日	フィリピン家族セラピスト協会 (SOFFT) 開催の家族開発についての専門的な開発 (CPD) セミナーへのソーシャルワーカーの参加
2019年11月9日 2019年11月16日	第1回児童保護セミナー 第2回児童保護セミナー
2020年1月10日 2020年1月13日から 17日 (5日間)	第3回児童保護セミナー オーストラリアの団体による「ヘアー・エイド」(ヘアカット技術研修)
2020年2月	第4回児童保護セミナー ヤクルト社のセミナー
2020年3月	第5回児童保護セミナーと修了式 小規模な事業を立ち上げるためのセミナー 事業提案の作成 小規模事業スタートアップのための事業助成 (※7月に延期)

※追加情報

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2月から3月頃の実施を予定していた、事業対象者である母親たちの小規模事業の開始は、政府が外出制限をかけたことにより、必要な買い物以外は長時間の外出ができなかったため、実施していない。児童保護セミナーの一部についても、集会が制限されているため、未だ開催することができていない。

収支報告

(1) 収入

項 目	金 額 (円)	内 容
全社協からの助成金	307,340	
自主財源	15,638	
合 計	322,978	

(2) 支出

項 目	金 額 (円)	内 容
児童保護セミナー	107,382	交通費、食事代
小口貸付	70,720	4,420円×16名
家賃補助	81,549	
田植え体験	24,763	交通費、食事代
ヤクルト・セミナー	6,243	交通費、食事代
マイクロソーシングによる セミナー／ミーティング	5,801	15家族向けに5回のミーティングを実施。
処理能力訓練	26,520	24人が参加し、ヘアー・エイド研修を実施。
合 計	322,978	

注) 通貨単位：円〔フィリピンペソ (PHP) で提出された報告をもとに円に換算したもの〕
換算レート：1ペソ≒ 2.21円〔送金日 (2019年6月5日) のレート〕

フィリピン共和国 基本情報



面積 ^{*1}	約30万km ² (2018年) 日本の約8割
人口 ^{*1}	1億665万人 (2018年)
人口密度 ^{*1}	355人/km ² (2018年)
主要民族 ^{*2}	マレー系が主体、他に中国系、スペイン系等
主要言語 ^{*2}	フィリピン語 (国語)、英語 (公用語)
主要宗教 ^{*2}	カトリック83%、その他キリスト教10%、イスラム教5%
政治体制 ^{*2}	立憲共和制
1人あたり国民総所得 ^{*1}	3,594米ドル (2017年)
通貨 ^{*1} (1米ドル=110.423円換算)	1米ドル=52.661フィリピンペソ (2018年平均) 100円=47.690フィリピンペソ
平均寿命 ^{*1}	男66歳、女73歳 (2016年)
65歳以上人口割合 ^{*3}	5.123% (2018年)
合計特殊出生率 ^{*4}	2.64 (2017年)

※1 統計局 世界の統計2020 <http://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

※2 外務省HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html>

※3 World Bank Population ages 65 and above (% of total population) – Philippines
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?locations=PH>

※4 World Bank Fertility rate, total (births per woman) – Philippines
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN?locations=PH>